

歯ピースマイルクラブ

Happy Smile Club



[特集]

がん薬物療法中の 口腔トラブルとケア

好評連載中

- おしごと拜見!! 〈京都市・南口腔ケアセンター〉
- 〈まんが〉満足度を高める接客のヒント
「歯ブラシをすすめるときのコツは?」

2013
Autumn
vol.18

特集 がん薬物療法について知ろう!

がん薬物療法中の口腔トラブルとケア

現在、多くのがん患者さんが、抗がん剤や分子標的薬などの薬物を用いる「がん薬物療法」を外来通院で受けています。今回は、歯科衛生士が日常生活や社会生活を送りながら、がん治療に向き合う患者さんを支援する上で知っておきたい事柄について、ご紹介していきます。

がん薬物療法を理解する

□ 薬物療法とは？

手術や放射線治療ではなく、薬剤を使用する治療を指します。特に、抗がん剤やホルモン剤などを用いるがん治療は、化学療法と呼ばれます。これらの薬剤は、静脈注射（選択的に動脈注射することもある）や内服などの方法で投与されます。薬物療法で使用される薬剤の多くは、様々な副作用を伴うため、副作用のコントロールも治療を継続する上で重要視されています。

□ がん薬物療法の治療環境は？

現在、抗がん剤治療や分子標的薬を用いた薬物療法は、外来治療を主体として行われています。その背景には、様々な副作用に対する支持療法の進歩、外来化学療法加算などの医療経済的観点、そして患者さんのQOL向上といった点などがあげられ、多くの施設で実施されています。

その一方で、患者さんを24時間体制で管理できた入院治療と異なり、患者さんは在宅療養となるため、安全性や治療の質の維持、そして患者さんのQOLを保持するために、これまで以上の安全管理や支持療法を徹底することが望まれます。

□ 治療期間はどれくらい？

薬剤により投与の間隔は異なります。毎週外来通院で投与される場合や、薬剤によっては3～4週間に1度投与される場合もあります。薬剤投与から、次の薬剤投与までの期間を1クールと呼び、治療計画によりこのクールを繰り返します（図1）。

抗がん剤や輸液、吐き気を抑える薬剤などの投与に関する一連の治療計画をレジメンといいます。



図1



□ 支持療法とは？

がんによる苦痛や症状、そしてがん治療による様々な副作用を予防または軽減・緩和させるために行われる療法を、支持療法といいます（図2）。例えば、抗がん剤による吐き気を抑えるために制吐剤を予防的に投与することもその一つです。また、抗がん剤による口腔内のトラブルや、症状を緩和させるために行われる歯科治療や口腔ケアも、支持療法として行われます。

図2



外来通院患者さんへの介入を考える

□ 薬物療法と口腔トラブル

薬物療法中は、口腔内に抗がん剤の影響が出ることがあります。例えば、味覚異常や、唾液腺障害、口腔カンジダ症、歯周疾患の増悪（骨髄抑制による免疫低下に伴うもの）などがあげられます。中でも、患者さんを苦しめる口腔トラブルとして、口腔粘膜炎が知られています。

口腔粘膜炎は、抗がん剤投与後、約10日前後で発現する副作用のひとつです。

一般的に発現するアフタ性口内炎とは異なり、広範囲に粘膜損傷（糜爛（びらん）や潰瘍形成など）を伴うため激しい疼痛があり、経口摂取や口腔ケアの大きな妨げとなります。

いずれの口腔内トラブルも、抗がん剤の種類により発現するものが特定されているため、どのような抗がん剤が投与されるかを事前に把握すれば、口腔トラブルがいつ発現するのかを予測することができます。患者さんへ介入する際には、これらの口腔トラブルを予期した上で、早期から口腔トラブルへの対策を立てることが重要です。

そして、口腔内トラブルを管理する上で、「清潔保持」「粘膜の保湿」は必須のセルフケアとなります。

□ ケア実施前に確認すべき事項

患者さんが医科から周術期口腔機能管理目的で紹介された場合、紹介状を持参されます。その場合には、紹介状の記載内容を確認します。これに該当しない場合であっても、初回介入時には必ず疾患名、これから行われる治療内容を確認することが大切です（表1、2）。これらを知ることが副作用予測や、治療の経過を考慮した口腔ケアや指導の実施につながるからです。化学療法中に継続的に介入する場合であっても、定期的に治療内容の変更の有無や、口腔以外の副作用の有無などにも気を配り、常にがん治療や患者さんの状況を把握しましょう。



表1 治療開始前の確認項目

<input type="checkbox"/> 原疾患
<input type="checkbox"/> 治療開始予定日
<input type="checkbox"/> 予定レジメン（投与される抗がん剤）
<input type="checkbox"/> 直近の採血データ
<input type="checkbox"/> 既往歴

表2 定期的に確認が必要な項目

<input type="checkbox"/> 治療内容の変更の有無
<input type="checkbox"/> 前回の投与日
<input type="checkbox"/> 直近の採血データ
<input type="checkbox"/> 口腔以外の有害事象
<input type="checkbox"/> 経口摂取状況
<input type="checkbox"/> 口腔内症状の有無

スケーリングなどの観血的な処置を実施する際には、易感染状態や易出血の有無を血液検査の結果から読み取り、安全に実施することが求められます。化学療法中は病院で頻繁に血液検査を行うため、患者さんには歯科受診時に検査結果を持参していただくようにしましょう（表3）。

表3 成人の基準値

感染の有無	白血球:3500～8500/ μL 好中球:40～70%
易出血傾向	CRP:0.1mg/dL以下 血小板:15～35万/ μL

□ がん患者さんへの対応

コミュニケーションを行う際は、会話中の言葉に配慮しましょう。例えば、「がん」は「体調」「ご病気」などの言葉に、「化学療法」は「治療」「点滴治療」などの言葉に置き換え、個人情報が他の来院患者さんに知られないような配慮が大切です。

抗がん剤投与後2～3日は、倦怠感や吐き気などで体調不良に陥りやすく歯科受診には不適切な時期となります。加えて、抗がん剤投与後1～2週間は、副作用により白血球や血小板などの数が少なくなる（骨髄抑制）ため、免疫力が低下しています。

アポイントを取る際には、比較的体調の安定する抗がん剤投与予定日の2～3日前に取ることや、感染予防として混雑時を避ける時間帯での予約取得などの配慮を行いましょう。

薬物療法の中止を防ぎ、 がん治療を支える 医科歯科連携の口腔ケア

南口腔ケアセンターと京都九条病院では、医科歯科連携による「周術期口腔機能管理」を行っています。今回は京都九条病院の北川一智先生と南口腔ケアセンター歯科チームに、「地域連携のシステムをスムーズに稼働させるポイント」と「がんの薬物療法中の患者さんの口腔ケア」について、伺いました。

今回取材したのは…

南口腔ケアセンター

京都市南歯科医師会が1998年に、在宅口腔ケアの普及を目的とする地域連携の拠点として設立。歯科医師と歯科衛生士が歯科チームを組み、病院や施設に往診し、医師や看護師をはじめとする多職種医療スタッフと連携した口腔管理を継続的に進めてきた。

■京都府京都市南区
TEL&FAX:075-662-6480
URL: <http://web.kyoto-inet.or.jp/people/h-hayasi/>



同仁会京都九条病院
外科・消化器外科部長
北川一智先生

歯科との連携の必要性を訴え、南口腔ケアセンターとともに医科歯科連携システムを推し進めてきた。「歯科をもたない病院でも、歯科と連携すれば薬物療法中の口腔粘膜炎も早く治せるということを実感しています」



徳地歯科医院院長
徳地正純先生

京都市南歯科医師会会長、南口腔ケアセンターセンター長として、地域医療への情熱をもって医科歯科連携を牽引している。「医科歯科連携のシステムづくりには、これまで医師会として積極的に取り組んできました」

医科歯科連携システムをスタートさせるまで

※南口腔ケアセンターは、いつごろから医科歯科の連携を進めてこられたのですか？

徳地●南口腔ケアセンターは1998年から、口腔ケアの普及を掲げ、地域連携の拠点として活動してきました。同じ地域にある京都九条病院とは、10年以上前から、医科歯科連携による口腔ケアを実施してきました。

※京都九条病院では、歯科との連携について、どのようなお考えですか？

北川●京都九条病院は京都市南区の中核病院として、急性期医療から継続的に医療・看護・介護ができる「地域こだわり医療」を取り組んでいます。当院には歯科が併設されていないため、同じ地域にある南口腔ケアセンターと取り組んできました。

※がん治療における医科歯科連携の経緯について、医科のお立場からお聞かせください？

北川●近年、がん治療は新たな技術開発や新薬の登場により、大きく変化し、治療を進めるまでの管理方法も変化してきています。

手術後であれば、早期離床が望まれます。体力・免疫力を保持するために、早期経口摂取が望まれ、そのために安全かつ安心して食べられる口を維持することは必要不可欠です。これまで連携してきた南口腔ケアセンターの活動をみて、当然がん患者さんにおいても同様に連携が必要だと感じていました。こうした素地があったからなんの抵抗もなく周術期ケアを推進することができました。

※南口腔ケアセンターでは、がん治療における医科歯科連携をどのように考えていらっしゃいましたか？

上田●2007年にがん対策推進基本計画の見直しによって、「医科歯科連携による口腔ケアの推進」が明記されました。これに伴い、京都市南歯科医師会では、がん患者さんへのアプローチを主眼において、「地域でいかに医科歯科連携を展開していくのか」についても検討を重ねていたところでした。

※がん治療においても京都九条病院と連携するようになったのは、どのようなきっかけからですか？

徳地●2012年4月の診療報酬改正に伴って、新たに保険に「周術期口腔機能管理」が導入されました。そこで北川先生と「これを機会に、一緒にがん患者さんの周術期口腔ケアをやりましょう」という話になりました。

※がんの周術期口腔ケアを始めるとき、障害はありませんでしたか？

徳地●南口腔ケアセンターのスタッフは毎月、京都九条病院のカンファレンスに出るなどして、病院の先生や看護師をはじめスタッフの方々とも十分なコミュニケーションがとれていました。こうした素地があったからなんの抵抗もなく周術期ケアを推進することができました。

※医科歯科連携に向けて、どのような準備をされましたか？

上田●まず「周術期口腔機能管理」に関する研修会を開催しました。医科歯科連携をうまく機能させるには、患者さんを紹介したり、ただく病院の先生方に「口腔ケアの重要性」について十分に理解しておいていただく必要がありました。そこで、研修会はオープンに開催することにしました。歯科医師や歯科衛生士だけではなく、病院や歯科医院の医師や看護師などにも参加していただけるようにしました。この研修会によって、医科の先生方にも「口腔ケアは患者さんのためになる」ことをご理解いただき、研修を修了した歯科医院を「協力歯科医院」としてリストアップできました。

※がん治療においても京都九条病院と連携するようになったのは、どのようなきっかけからですか？

徳地●2012年4月の診療報酬改正に伴って、新たに保険に「周術期口腔機能管理」が導入されました。そこで北川先生と「これを機会に、一緒にがん患者さんの周術期口腔ケアをやりましょう」という話になりました。

※協力歯科医院はどのくらいあるのですか？

徳地●京都市南歯科医師会は40名弱の小さな歯科医師会ですがチームで支え合い、会員の1/3が地域連携のがん治療に参加する形で稼働しています。

がん患者の口腔トラブルと口腔ケアの必要性

※薬物療法中の口腔トラブルには、どのようなものがありますか？

北川●薬物療法を受けている患者さんは、口腔粘膜炎の痛みなど、副作用による合併症をたくさん抱えています。最近増えている新薬（分子標的薬）による治療では、重度の口腔粘膜炎や口腔乾燥による味覚障害などの副作用がみられるようになっています。

※薬物療法を受けているがん患者さんは、増えているのでしょうか？

北川●薬物療法を受けている患者さんは、実はたくさんいらっしゃいます。入院よりも、外来で通院している方が多いですね。

※こうした口腔トラブルに対して、歯科医院ではどのような治療やケアを行っているのでしょうか？

和田●限局的に発生している口腔粘膜炎に

は、レーザー治療を行います。痛みは1回の照射でなくなりますので、患者さんには喜んでいただけています。その後、やわらかい歯ブラシを使ってもらったり、痛みのあるときは歯磨き剤を使わずにブラッシングしたり、歯科衛生士には患者さんの状態に合わせた口腔ケアをするようにしてもらっています。

※医科では薬物療法中の口腔ケアを、どのように評価していらっしゃいますか？

北川●口腔粘膜炎などの口腔トラブルが重症化した場合、抗がん剤投与を延期せざるを得ないケースがありました。しかし、歯科と連携するようになり、口腔トラブルの改善や症状緩和を図ることができました。患者さんからも「楽になった」と聞くことも多く、効果を実感しています。がん治療を継続する上で、経口摂取を継続し体力を温存することは必要不可欠な要素です。治療を継続するためにも、食べられる口を保つことは、とても重要な管理の一と感じています。

※歯科との連携を始めてよかったですと思っていることはどんなことですか？

北川●口腔の問題に直面したとき、すぐに相談できる歯科チームの皆さんと、そして安心して患者さんを紹介できる協力歯科医院の存在ですね。歯科の専門家であるということだけでなく、双方顔の見える関係ができ

ているので、信頼でき、本当にいつもお世話をっています。

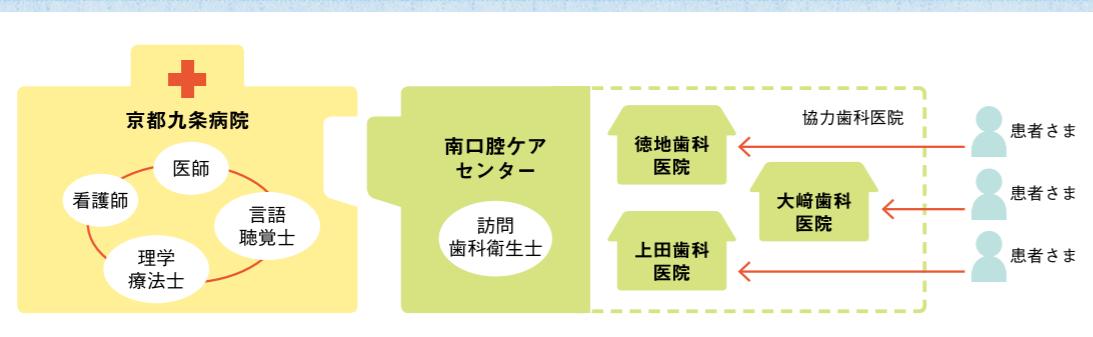
歯科衛生士の役割と仕事

※南口腔ケアセンターにおいて、歯科衛生士はどのような立ち位置で仕事をしていらっしゃいますか？

徳地●南口腔ケアセンターでは、各施設ごとに所員衛生士の担当が決まっており、京都九条病院では岸田さんが中心となって活動しています。病院と協力歯科医院、施設、在宅を行ったり来たりしながら、シームレスな業務を行ってくれています。医科歯科連携のキーパーソンとして、病院と歯科とをつなぐ架け橋のような役割をしてくれていると思います。

岸田●私はフリーランスの立ち場で、会員の歯科医院とそれぞれ個人契約を結んで訪問歯科衛生士の仕事をしています。また、京都九条病院へは、協力歯科医院の先生方とともに往診し、入院中の様々な患者さんへ口腔ケアを行っています。患者さんが退院して在宅や施設に移った後も、「担当歯科衛生士」として、継続的に口腔ケアを行わせていただいている。

地域連携の図解



◀ チームワークのとれた北川先生(写真中央)と南口腔ケアセンタースタッフ。

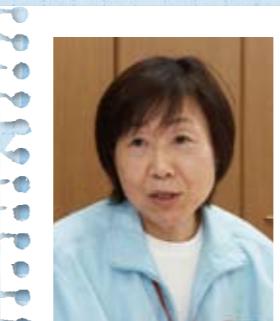


▶ 南口腔ケアセンターのコアメンバー。「白衣を脱いで外に出よう」をスローガンに活動している。前列左から徳地先生、北川先生、岸田さん。後列左から上田先生、和田先生、大崎先生。



上田歯科院長
上田賢先生

京都市南歯科医師会副会長として、南口腔ケアセンターの活動を力強く支えている。「歯科衛生士がしている仕事は、患者さんの命にかかわること、という意識をもって仕事をしていってほしいと思います」



南口腔ケアセンター
訪問歯科衛生士
岸田文枝さん

フリーランスの立場で活動している。「これまで関わった方々と地域でお会いする声をかけ、口腔ケアのアドバイスをするなど濃いお付き合いをさせてもらっています」



大崎歯科医院院長
大崎裕先生

「歯科医院の中で診療するだけではなく、連携する病院から依頼を受けたら「迅速に出向く」ことをモットーに、医科歯科連携にも力を入れて進めています」



徳地歯科医院副院長
和田智仁先生

「口腔ケアをすることで、楽になつた! 食事をとれるようになった! と言っていただけるまでに、薬物療法中の患者さんは改善されています」

※退院後も同じ歯科衛生士が担当するメリットは?

徳地●退院すると多くの場合は、それまで担当していた歯科医師や歯科衛生士から、医療情報紙のサマリーを介して、他の歯科医院へ引き継がれることになります。しかし、南口腔ケアセンターでは担当歯科衛生士が退院後も引き続き口腔ケアを行うため、生きた口腔ケア情報を共有しながら、個々の背景やニーズに即した継続的な口腔ケアを実践することが可能です。ここが、当センターの特徴であり、また大きなメリットだと感じています。

※日頃、歯科衛生士として、どのような仕事をなさっていますか?

岸田●病院や施設、在宅など様々な環境にいらっしゃる患者さんへ、口腔ケアを行っています。そのため、多職種との情報共有やコミュニケーションを図りながら、仕事をしていくことがとても重要です。例えば、病院に入院中の患者さんなら、看護師や理学療法士、言語聴覚士の方々から情報を集め、双方の連携を取りながら口腔ケアを行っています。また、入院中に担当していた方が退院後、外来での化学療法が予定されている場合などは連携する歯科医院へ紹介することがあります。その際は、紹介先の歯科医師や歯科衛生士さんへ患者さんの特徴を伝えたり、口腔ケア時のアドバイスを行ったりと、生きた口腔ケア情報を提供することもあります。

地域の医科歯科連携を上手に進めるポイントとは

※地域連携システムをすすめる上で、準備されたことはありましたか?

徳地●患者さんは、「がん」と告知を受け、大きなプレッシャーを抱えた状態で歯科受診をすすめられます。このタイミングで歯科受診をすすめられ、すんなり受診される患者さんは多くありません。がん治療における医科歯科連携は、患者さん自身の歯科受診への理解と協力なくして始まりません。そのため、医科の先生方へも、「口腔ケアがなぜ必要なのか」研修会を開催し、ご理解いただいた上で歯科受診を説明いただくよう、目的の共有化を図りました。やはり、医科の先生方にご理解いただき、患者さんへお話ししているだけでは影響力は大きいと思います。

※口腔ケアの重要性について、歯科衛生士さんからも説明したときに、患者さんに受け入れていただけましたか?

岸田●これまで通常の社会生活を行ってきた手術前や化学療法前の患者さんの口腔内は、自立度の低下した長期入院の患者さんと異なります。ケアが行き届いている方も少なくありません。そのような方に、「口腔ケアが必要ですよ」と言っても、なかなか受け入れてもらいにくいところがありました。

※そんなとき、受け入れていただきやすい説明の仕方はありますか?

岸田●「病気だから口腔ケアが必要です」

という一方的な説明の仕方では、患者さんに伝わりません。なぜ治療開始に伴い口腔ケアが必要となるのかを丁寧に伝えることが大切です。「お口の中は、細菌の数が一番多いところって知っていましたか? この細菌が術後の肺炎などの合併症とも関連するんですよ。治療前に口腔ケアを行うと、この細菌の数を減らせるんですよ!」など、話題をきっかけに、患者さんとコミュニケーションを取りながら、説明を進めるようにしています。また、「身体が辛い」という方もいらっしゃるので、その場合は無理に口腔ケアをすすめず、医師や看護師とも相談や連携を取りながら時期を見るケースもあります。

※医科側からは、このシステムをすすめる上で問題はありませんでしたか?

北川●私たちが患者さんを歯科へ紹介する際に問題となったことは、どこへ紹介すればよいかという点でした。がん患者さんを受け入れてもらることはもちろんですが、がん治療前に必要とされる口腔管理や口腔ケアを理解し、また患者さんが安心できる歯科医院が、どこにあるのわからなかったのです。現在は、京都市南歯科医師会で研修を受けた協力歯科医院のマップがありますので、以前に比べ、患者紹介がスムーズに運んでいます。

※協力歯科医院マップはどのように作って配布されましたか?

徳地●京都市南歯科医師会では、歯科へ紹介される患者さん自身、そして紹介する病院の先生方に、受け入れできる協力歯科医

院がどこにあるのかがわかりやすいように「周術期口腔機能管理 南歯科医師会協力歯科医院マップ」(写真)を作りました。そして、京都九条病院と協力歯科医院に配布しました。

※患者さんを歯科に紹介するとき、どのような手続きをしているのですか?

徳地●病院と協力歯科医院との間で、煩雑になりやすいのが事務連絡です。この事務連絡を簡素化するフォーマット用紙を作り、ファックスを1枚送るだけの手続きで、各協力歯科医院で受診できるようにしました。

※このシステムがスムーズに運んでいる理由について、どう思われますか?

北川●医科側からすると、うまくいっている理由のひとつは、定期的に歯科医師、歯科衛生士が病院に来て、病院スタッフとコミュニケーションを図り、そして病院スタッフも気軽に相談できる双方向の関係性があるからだと思います。

徳地●そうですね、歯科医師、歯科衛生士も病院スタッフの方々とフレンドリーなつきあいができると思っています。特に、岸田さんは歯科医師、歯科衛生士の歯科チームを仕切ってくれていて、歯科と医科のつなぎ役として活躍してくれています。

※歯科チームとして仕事をするときに心がけていらっしゃることは?

岸田●医科から集めた情報は、歯科へ伝え、歯科チームの活動がスムーズに進むように心がけています。医科も歯科も同じ患者さんを診ているですから、多職種の方々と、

歯科医師、歯科衛生士の両者と連携を取り合いながら進めていくことが重要だと感じています。

徳地●病院にはさまざまな人が出入りしていますから、存在を知つてもらうことも大切です。院内に出向いた際には、病院スタッフの方にひと目でわかつていただけるよう、南口腔ケアセンターのスタッフはユニフォームを着用して往診することにしています。ひと目でわかるユニフォームは、話題作りやコミュニケーションのきっかけとしても役立っています。

がん治療に携わる意識をもって

※これから歯科のあり方、歯科衛生士への期待などについてご意見をお聞かせください。

大崎●薬物療法中のがん患者さんを診察する機会は、今後もっと増えていくと思います。がんだからと特別扱いせず、普通に接しながらも、治療による有害事象などを理解して歯科としての役割を果たすことが大切だと思っています。そして、様々な口腔トラブルを抱える患者さんに対し、症状を上手に取り除き、また経口摂取を継続できるようサポートしていきたいですね。

上田●2人に1人ががんになる時代、がんの薬物療法の有害事象による口腔粘膜炎で困っている人は、掘り起こせばまだまだいるはずです。「がん治療には口腔ケアが必要だ」ということを広く周知していけば、もっと

早く楽になる患者さんが増えるでしょう。そして、歯科衛生士には単に口腔ケアを行うのではなく、「がん治療に携わる」という認識を持って仕事をしてほしいと思います。

岸田●全身状態や、病状のステージにあつた口腔ケアができるようになるには、ある程度の勉強と経験が必要です。がん患者さんの口腔ケアについても、研修会や多職種とのコミュニケーションなどから積極的に学んでほしいと思います。

和田●歯科衛生士は直接口腔ケアに携わる職種ですから、がんの治療に対する知識(抗がん剤、分子標的薬を含めた薬物とその有害事象)や治療期間、そして歯科がどの時期にどのように関わるのかなど、少しずつ知識を深めてもらいたいですね。

徳地●がん患者さん含め、世の中にはまだまだ歯科のサポートを必要としている患者さんがいると思います。歯科衛生士とともに、隠れているニーズを掘り起こし、これからも社会貢献をしていきたいと思っています。

北川●京都九条病院のように歯科がなくとも、受け入れシステムがあれば、これだけのことができるんだということを、他の病院の先生方にも知つていただきたいと思います。そして医科の依頼に応えて稼働できる、地域の医科歯科連携システムを、さらに広めていきたいと思っています。

取材を終えて

医科歯科連携には枠組みも必要ですが、何より人と人のつながりが一番大切なだけではなく、実際に取材を通じて実感しました。南口腔ケアセンターと京都九条病院のように職種間、施設間を超えた質の高いチーム医療が、全国各地に広がることに期待したいと思います。



▶ 南口腔ケアセンターのユニフォーム。介入時は、病院スタッフからも一目で歯科チームだとわかるように、必ず着用している。

◀ 病院と協力歯科医院に配布した協力歯科医院の地図。裏面には協力歯科医院と(医院名、院長名、電話番号、住所)と地域連携病院がリストアップされている。



◀ 岸田さん(写真左)が南口腔ケアセンター歯科チームのまとめ役として活動している。



カリスマDHが
教える

満足度を高める 接客のヒント

DHにとって、技術と同じくらい重要なのは、患者さんとのコミュニケーション技術。オーラルケアの基本とも言える歯ブラシ選びは、患者さんの立場に立って、アドバイスしましょう。



指導：歯科衛生士
沢口由美子さん

さわぐち・ゆみこ／1959年東京都生まれ。1998年に長男を出産し、子育てをしながらフリーランスの歯科衛生士として活躍。「命が尽きる前日まで、臨床で仕事をしてみたい」というほど、DHの仕事に誇りと愛情を抱いている。DHのレベルアップのためのセミナーも多数行う共著に『継続通院したくなる歯科医院のスタッフ育成計画』(わかば出版)など。

歯ブラシをすすめるとときのコツは？



現在使っている歯ブラシや、 患者さんのおこだわりを確認する

歯ブラシをすすめるときは、「これがいいです」という決めつけや押しつけはNG。「馬毛じゃないといや」など、素材や硬さなどにこだわりをもっている患者さんもいるので、まずは「今、どんな歯ブラシを使っていらっしゃいますか？」と確認しましょう。できれば、実際に使っているものを見せてもらって、力の入れ方や磨き方の癖もチェックします。「今使っているものもいいですね」と認めた上で、「○○さんが苦手なところも上手に磨くには、これ」「ちょっと歯ぐきが腫れているので、これ」とおすすめすれば、「私のためを思ってすすめてくれている」と、患者さんからの信頼度も増すはずです。



市販の歯ブラシも使ってみて 歯ブラシ博士を目指そう！

本当にいい歯ブラシを知るために、一般で売られている歯ブラシも実際に使って比べてみることが大切です。2本買って、1本を手に持って触りながらもう1本で磨くと、歯ブラシの特徴をより理解できます。スーパー・ドラッグストア・雑貨屋さんなどで、どんな歯ブラシがどれくらいの価格帯で売られているか、売れ筋商品はどれかをチェックしておきましょう。デンタルショーなどに参加すれば、メーカーの担当者にコンセプトを聞いたり、サンプルをもらったりすることもできます。歯ブラシは、歯科衛生士の専門分野。ドクターからアドバイスを求められるような「歯ブラシ博士」を目指しましょう。

- 患者が使っている歯ブラシを確認する
- 自分のおすすめを押しつけない
- 一般的な歯ブラシを、2本ずつ買って使ってみる
- 売っている歯ブラシについてチェックしておく
- なぜ、その歯ブラシがおすすめか説明できるようになる
- 専門分野として重要な役目を担っている自覚と自信を持つ

歯ッピー TOPICS

医科＆歯科連携で目指せ
疾患治療に伴う患者さんの
口腔トラブル対策に！



保湿と低刺激のやさしい口腔ケアを実現した 「バトラー 口腔ケアシリーズ」

口腔乾燥や口腔粘膜の荒れた方にも使いやすい、乾燥した口の中を保湿する商品と、弱った口腔粘膜を刺激しにくいケア商品を揃えたシリーズです。

● がん患者さんの口腔ケア

健康な方であれば、口内の健康は口腔粘膜や唾液などによって守られています。しかしがん治療中の患者さんの口腔は、抗がん剤や放射線療法などによってお口のトラブルが起きやすい状態にあります。口腔粘膜炎から口腔感染が生じたり、口腔内の乾燥によって唾液の分泌量が低下し不快感や痛み、嚥下困難を伴ったり、あるいは味覚障害などのトラブルになりました。

を抱えやすくなります。このようなトラブルは、お口の中だけにとどまらず、痛みから食事が摂りづらい、低栄養を招き全身状態を悪化させる、などによりがん治療の継続を困難にすることにもつながります。お口の中を少しでもよい状態にすること、口腔ケアの重要性が認識されるようになりました。

national歯ッピースマイルクラブ編集部
おすすめ製品のご紹介!

静岡県立静岡がんセンターとの共同研究によって、乾燥したお口、弱ったお口の粘膜のやさしいケアのために開発された製品です。

乾燥したお口をしっとり保湿します。

バトラー ジェルスプレー 50mL

乾燥したお口にシュッとひと吹きでうるおいを

口腔保湿液

- お口にとどきやすいマイクロゲル製剤：液状なのに、たれにくい。
- 手軽に使えるスプレータイプ：直接お口に塗布でき、携帯性に優れる。
- トウモロコシやタピオカ由来の保湿成分「Tornare®」を配合。：お口の粘膜の高い保湿力が持続。

バトラー マウスコンディショナー 250mL

乾燥したお口をクチュクチュ洗浄でさわやかに

希釈タイプの保湿洗口液

- うすめるタイプの洗口液：本品1本で約50回使用できて経済的。
- ほのかなミントの香りがするノンアルコールタイプ：低刺激性で、使用感もすっきり。
- 保湿成分「Tornare®」、キサンタンガムを配合：お口の粘膜の高い保湿力が持続。

歯みがきの刺激に
弱い方にも
ご使用いただけます。

バトラー マイルド ペースト

医薬部外品 70g

敏感なお口をやさしい
泡立ちですっきり洗浄

- 低刺激性。やさしい泡立ちと、ほのかなミントの香り：荒れた粘膜にもしみにくい。お口をすっきりと洗浄。
- ムシ歯を防ぐフッ素を配合
- 「Tornare®」(湿潤剤)を配合

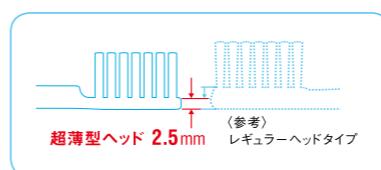
粘膜や歯ぐきに
やさしいハブラシです。

バトラー #03S 1本入

超薄型ヘッド。スーパーウルトラソフト毛

やわらかハブラシ

- 弹力性に優れたスーパーウルトラソフト毛（4mil）：荒れた粘膜や歯ぐきにやさしい。
- 薄さ2.5mmのコンプリートヘッド：奥の狭い部位もみがきやすく、操作性が高い。



高い清掃力で、
口腔内をより清潔にします。

バトラー スポンジブラシ

口腔ケア用

個包装 10本入
個包装 50本入

お口の汚れをやさしく、しっかり取り除く

粘膜ケア スポンジブラシ

- きめが細かくやわらかいスポンジ：弱ったお口の粘膜をやさしく清掃。
- スポンジの独自なカット形状：すみずみまで、汚れを取り除く。
- 水に強いプラスチック製の柄



スポンジ部
横断面



全身状態・口腔内状態を考慮した 歯ブラシの選択



薬物療法や化学療法中は、全身状態や口腔内状態に変化が認められることがあります。例えば、骨髄の機能抑制により、易感染、そして易出血状態に陥ることがあります。患者さんが、治療中のセルフケアを安心して続けられるような歯ブラシの選択が大切です。

口腔内観察の前に……

口腔内観察を行う前には、原疾患(特に頭頸部の領域や造血器疾患など)や、治療方針、使用薬剤などの情報を収集し、確認します。また、血液検査結果などを患者さんが持参している場合には、検査データを確認し、易感染、易出血状態の有無を評価し、歯ブラシの選択に活かしましょう。

治療開始前・治療開始後

ひとりひとりの口腔内の状態に合わせて、歯ブラシを選択します。易出血傾向を認める場合や、口腔粘膜の脆弱化などを認める場合を除き、基本的にはセルフケアで清掃状態維持が達成できるよう口腔内の状態・患者さんのテクニックに合った歯ブラシを選択します。



悪心・嘔吐発現時期

治療法によっては、一時的に悪心や嘔吐が副作用として発現します。ブラッシングで悪心・嘔吐を誘発することがあるため、発現時は歯磨剤を控えたり、コンパクトヘッドの歯ブラシやシングルタフトブラシなどの使用を提案します。ブラッシングすることが患者さんの負担となる場合には、無理なブラッシングは控え、代償行為として頻繁に洗口するように指導しましょう。

歯肉が脆弱な場合・易出血な傾向の場合

歯肉に口腔粘膜炎などが認められる場合や、易出血傾向(血小板の減少など)の場合には、粘膜を損傷させないようなコンパクトヘッド、かつスリムネックの歯ブラシを選択し、毛先も軟毛や超軟毛のものを選択するなどの配慮が必要です。また、ブラッシングテクニックについても、口腔内を損傷させないように、患者さんの状態に合った適切な方法を指導しましょう。

口腔内の状態に
合わせて、ブラッシング
テクニックにも注意しましょう!



Information

お便り
お待ちして
います!



● 皆様の輪がどんどん広がる 「歯ピースマイルクラブ」

「歯ピースマイルクラブ」では皆様からの投稿をお待ちしております! 日々のお仕事や、診療室での出来事、今号の記事についてなど、あなたのご意見・ご感想をお聞かせください。

● 便利な読者登録 購読無料

読者登録用紙にて「歯ピースマイルクラブ」の読者登録ができます。ご登録いただいた方には、最新号を定期的に送付いたします。

なお、1度ご登録いただいた方は再度ご登録する必要はありません。

お便りの応募・読者登録はこちらまで

FAX 072-684-5669

受付時間24時間

※ 専用のFAX用紙を利用されますと便利です。

郵送でも
受け付けて
おります。

〒569-1190 大阪府高槻市朝日町3番1号 サンスター株式会社
「歯ピースマイルクラブ」係

サンスター歯科用商品は、歯科流通業者様よりご購入いただけます。
今後ともご愛顧賜りますよう、よろしく
お願い申し上げます。